

# 活動報告書

報告者氏名: 内田 利幸 所属: 名和小学校 記録日: 平成26年2月14日

## 【対象児の情報】

・学年: 小学5年 男児

・障害名: 学習障害 (境界域)

・障害と困難の内容:

- ①読むことが苦手で、読んでも意味が分からない。読んでもらったのを聞くと理解できることが多かった。理解力はあると思っていたが、文字からの入力経験が少ないためか思考力、理解力とも伸び悩んでいるように思われる。そしてだんだんと意欲も低下して、良い結果につながらなくなっている。
- ②表記の際に促音が抜ける、画数の多い漢字を覚えることが苦手 等の困難さがある。
- ③作文を書く際、構成がうまくできず、筋道の通った文を書くことが苦手。

## 【活動目的】

・当初のねらい:

- 読み上げソフトを用いて、教科書等の文章を聞くことで理解する力を支える。
- ワープロソフト、音声入力ソフト、マインドマップソフトを用いて自分の考えをまとめ整理し、文字で表現する場面での負担を軽減する。

・実施期間: 平成25年7月~平成26年2月

・実施者: 内田利幸

・実施者と対象児の関係: 昨年度までは通級児童とその担当者、今年度からは個別指導の担当者

## 【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児の事前の状況

○読むことに関して

- ・読みがたどたどしいこと  
逐次読みで、誤読や読み詰まりが多い。易疲労性があり多くの量が読めない。読みながらの意味理解は難しい。
- ・漢字を読むことが苦手  
2年生程度の漢字は概ね読める。読み書きスクリーニング検査の結果(2年生で学習する漢字)は19/20であった。しかし、複数の読み方がある漢字は1つしか覚えておらず、2年生で学習する漢字でも読めないものもある。  
(例:「親」を「おや」と正しく読めても「親しい」は「おやしい」と読んでしまう)

○書くことに関して

- ・作文を書くことが苦手  
構成が苦手で、特に出来事の順序を整理して考える事ができない。また、下書きを見て写すことにはさほど困難さはないが、字形が整わない。
- ・ひらがな表記の際、促音が抜ける  
促音は90%以上抜ける。表記できているもののうち殆どは位置が間違っている。直すように声かけをすると促音が抜けていることには気づくがどこに書いていいか(どこに入るか)分からない。

## ・活動の具体的内容

### ○活動の頻度

1, 2学期はほぼ毎日、3学期は週に2, 3回。昼休憩の時間に1回あたり約15分

### ①読むことについて

本人、担任のニーズが書くこと(特に日々の日記を書くこと)だった。そのため学校での指導の中心は書くことで、読むことについては家庭でデイジーを利用する事を中心に行った。単元に入る前から家庭でデイジーを使用して見通しを持って学習に向かえるようにするとともに、読み上げを毎日聞きながら読む時間をとることで内容のイメージをもてるようにしていった。学校では通常の紙の教科書を使っていたが、そうしたの家庭での取り組みもあって、読み取りや話し合いの場面で自分の意見を発言する姿が出てくるようになっていく。

一方で、高学年ということもあり、担任とも相談しながら、困難の強い音読を減らし内容理解ができているかを重視していくようにした。漢字についても「正確な読み」より「意味理解」を優先していった。(例えば「元旦」という漢字が読めなくても「正月のことだな」と分かればいい等)このことにより「間違えてはいけない」「正確でないの意味がない」と緊張していた部分が和らいでいき、読むことへの取り組む気持ちが楽になった様子だった。今後は、安心して学習に向かえる状態を保ちながら、読み上げで正しい読み方を聞くことを繰り返す中で、対象児童のペースで読み間違いについても修正して行きたいと考えている。

### ②書くことについて

#### ○アプリの自己選択

現状は、指導者からアプリを提示されて使い方を習い自分の苦手な部分を補う事ができるように学習に取り組んでいる。しかし、将来的にも自分に必要な手だてとしていくには、対象児童が主体的に活用にかかわる必要があると感じている。

最終的には、

- ① 自分でアプリを見つけ、
- ② 使い方を人に聞くことなく理解し、
- ③ 必要なときに使うことができる

という3つの力をつけて行くことを目指したい。

そのためには、まず、「比べる」「選択する」という経験が大切だと考えて、マインドマップアプリの導入で取り組んだ。

まず、教師がマインドマップアプリを検索して、対象児童が使用可能だと思われる5つのアプリ(espresso Mind Map Light, metor mind, Nova mind, M8!, Make Up My Mind)をインストールした。児童に提示し、簡単なテーマを書き込む体験を行ってみて、どれが使いやすかったかを話し合った。初めての経験であり、違いを感じたりそこから選んだりするのは難しいかと思っていたが、スムーズに1つ(M8!)に決めることができた。どれも直感で操作できたのであまり時間をかけずに決める事ができた。

今後も機会をとらえて、こうした「比べる」「選択する」という経験を重ねるとともに、その前段階である「探す」という取り組みにも少しずつ関わらせていきたいと考えている。

○「書くこと」に対して使用したアプリの目的等

	目的	場面	活用等
AmiVoice (音声入力アプリ)	書く負担を軽減する。	日記等の文章を入力する時	当初はこちらのやり方が悪く、認識率が良くなく諦めていた。しかし、認識しやすい方法(流暢に発声できるものから練習する)を教えてください、少しずつ使えるようになった。
M8! (マインドマップアプリ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成</li> <li>考えをまとめること</li> </ul>	主に日記を書く場面	個別指導の時間に今日の出来事の中で印象に残ったものをM8!を使って整理する。その図をプリントアウトして教室に持ち帰り、帰りの会の作文を書くときにその紙(マップ)を見ながら作文を書く。

・対象児の事後の変化

①読むことに対して

○以前は自分から「読む」という活動に向かうことはなかったが、日々の家庭学習での音読に、自分で準備して取り組むことができるようになって来ている。「自分でできる」「これならわかる」という思いが、本児の中に芽生えてきているのを感じている。担任の先生からも同様の感想聞いている。

また、読み上げを聞きながら目で追って行くことを繰り返してきたことで、授業場面での読み間違いは減って来ている。内容をイメージした上で授業に向かえることから、以前のような「どうせできない」という投げやりな態度も減って来ている。

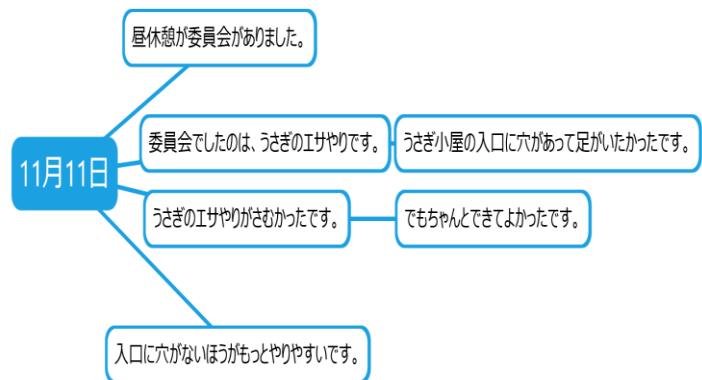
現在は「デジ教科書」「家庭学習」と、活用場面が限られているが、本児の読みの困難が課題になる場面はもっとたくさんあるので、必要とされる場面ですべて使えるように手だてを広げて行くことを模索したい。

②書くことに対して

○日記を書く際、短時間で量が増えた。

○促音の表記ミスを自己修正できた。これまでは、読み返そうとしても字形の整わない手書きの文字を読むことにはかなりの労力を必要とするため、しっかりと確認できていなかったものが、テキストになっていることで捉えやすくなったのではないかと感じている。

今までできなかったことができるようになり、自信がついていたようである。個別学習でのモチベーションも当初に比べ上がってきた。



M8!で作成したマップ

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

M8!を使うまでは、作文を書くのに時間がかかったり、量も少なく『ねじれ文』になったりすることもあった。また辻褄が合わなく言いたいことが伝わりにくい場面が多かった。しかし、M8!を使ってからはそういうことが少なくなった。視覚的に構成を捉えられたことが、対象児童には非常に有効であったと感じている。また、自分で見直して修正する力があることが本人にも周囲にも認識された意義も大きかった。「方法

があればできる」という自信は、学習へのモチベーション全体につながってきている。

### ・エビデンス(具体的数値など)

帰りの会で作文を書く際、10/21 から M8!を使っている。その結果以前に比べて、短い時間で多くの量を書くことができるようになった。(表1 参照)

(表1)

	作文の1回の平均文字数	書くのにかかった平均時間
1学期	約63文字	※
8/28~10/18	約130文字	約19分
10/21~10/31	約165文字	約9分

※1学期は時間を測っていない。

←M8!使用期間

(2学期は平均文字数が2倍以上になっているのは学校全体で作文指導に取り組んだ影響があると思われる)

### ・その他エピソード(画像などを含めて)

○Daisy 教科書を見聞きすることは興味を持って取り組むことができた。「これをしておくと授業がわかりやすい」という意識も持てたようで、家庭で準備から片付けまで、1人でできばきと行いながら、継続することができている。

○「ペンで文字を手書き入力しそれが活字に変わる」「漢字に変換できる」「読み方が分からない漢字を調べることが

できる」という手だてを得たことで、安心して学習に取り組む姿が見られた。最初はひらがなの「ん」の字形が整わず、ペン入力すると「人」に変換されてしまう等、活用して行くことが難しいかもしれないと思う場面もあったが、何より本人が「この方法ならできる」「この方法を使って行きたい」という意欲を強く持っていたため、そこで「できない」とあきらめず、自分の字形を整えることを意識することで解決していく姿が見られた。対象児童にとっての「必然」が、書字の困難という状況を「支える」だけでなく「改善する」意識につながっていることも伺えた。

○Am i V o i c eの活用については、まず書いてある文を読んで認識精度を上げてから、実用場面(作文を書く等)で使う計画で取り組みを始めた。(実際に私自身もやってみて認識率がどんどん上がっていき使えるという実感を持って望んだ。)しかし本児の場合、当初はほとんど認識しなかった。

発音が不明瞭な部分があるので、音声入力はこの子には向かないのかもしれないと思っていたが、「読み困難のある子に「読む」ことで音声認識させようとしていた」ことで、より流暢性のない入力になっていたということが、プロジェクトの中で指導を受けて分かった。その後、対象児童がスムーズに話せる「おはよう」「いい天気だね」といった日常語で試みた所、「スムーズに話せる」→「正確に変換できる」ということがわかってきた。話したことがそのままテキストになるというのは、「書くこと」の苦手さで悩んで来た対象児童にとっては、やはり大きな喜びにつながった様子だった。今後、書く量が増えて来た時の負担感を考えても、音声入力の活用は選択肢の1つとして活用したいと考えているため、まずは本児が無理なく楽しんで入力できる場を重ねていきたい。

○サーフェスでは、多様な入力方法が選択できる。ここまで試みて、本児には以下の3つを活用していくことが有効ではないかと感じている。

#### ①ローマ字入力



Amis を使って Daisy 教科書を見聞きしている場面

②スタイラスペンを使っての手書き入力

③音声入力。

本児にとってそれぞれ一長一短があるためすぐに1つに決めることはできないが、これらの入力方法を試しつつ本児にあったものを検討していきたい。また、場面によって使い分けていくことも、模索して行きたい。

○右の写真(画像①)は○×日記というアプリに AmiVoice で音声入力しているところである。2つのアプリを同時に画面に表示させることで、覚えた手だてを違うアプリを使う際にも活用できたのは、本児にとって見通しと安心感につながった。分割サイズも半分、1/3、1/4 等ある程度自由に変えることができるため、「参照したいサイト」「意味を調べるサイト」「まとめていく Word や M8!の画面」を必要に応じて同時に表示させながら使って行くことも、今後は取り組んで行きたい。作業中に必要なものが同一画面の中で確認できる状態にあることは、本児にとって有効な提示になることが期待できると考えている。

